

ハーモニー

Harmony

第72号 2016年12月20日発行
日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座
後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

目次

第24回学術集会（北海道）のご報告とお礼……………1
第24回学術集会を終えて……………2
第24回学術集会プレコンgres報告……………3
学会参加者の声……………3
私の県の「ここが特色」⑩……………4
「災害について考える」⑤……………5
トピックス……………6

2016年度総会報告（速報）……………6
2017年度「研究助成金研究」ならびに 第24回学術集会「投稿奨励研究」選定報告……………7
学会誌第21巻第1号投稿原稿の募集……………7
理事会開催議事録報告（要旨）……………8
事務局より……………8
編集後記……………8

第24回学術集会（北海道）の ご報告とお礼

学会長 今野 洋子（北翔大学）

2016年10月8日～9日、北海道江別市の北翔大学において開催いたしました日本養護教諭教育学会第24回学術集会では、約300名の皆様にご参加いただきまして、本当にありがとうございました。

本学術集会のメインテーマは「子どもの未来を拓く養護教諭のチーム学校への挑戦-」といたしました。現在、日本が取り組もうとしている「チーム学校への挑戦」は、学会長である私にとっても大きな挑戦でした。もちろん学術集会そのものが、私にとっての一生に一度の大きな挑戦でした。

特別講演では、内閣府食品安全委員会委員長の佐藤洋先生から子どもの健康に関わる学際的なお話をうかがうことができました。アレルギーに関しては、これからリスク評価等が行われ、新知見が得られる日も近いということで、とても興味深いご講演となりました。

パネルディスカッションでは、コーディネーターの後藤ひとみ理事長と古賀由紀子常任理事の運営で、札幌学院大学の澤真平先生に『「見えない貧困」を見るために』というテーマで課題提示をしていただき、SSWの田村千波先生、SCの金澤多希子先生からご発表いただき、養護教諭の今富久美子先生、副校長の入駒一美先生より、それぞれの立場からのご発表をい

ただきました。フロアからの活発な意見も、たくさんいただくことができました。子どもを中心に据え、それぞれの専門性を生かし、それぞれの立場に敬意を払い、連携・協働するチーム学校への挑戦の意義が明らかにされたように思います。

一般演題では口演17題、ポスター20題の申し込みをいただき、多くの方にご発表いただきました。各会場では活発な討論がなされ、座長の皆様の采配と皆様のご協力により時間運営も適切に行われました。

セミナーは、弁護士である佐々木泉顕先生、本学心理カウンセリング学科の新川貴紀先生、本学会の学術担当理事による3題でしたが、どのセミナーからも熱気を感じることができました。

幸いに天候に恵まれましたことに安堵しております。学術集会を終えて、反省すべきことはたくさんありますが、大きな挑戦をしてよかったと思う気持ちのほうが大きいと言えます。そして、皆様への感謝の思いでいっぱいです。この大きな挑戦を支えてくれたのは、後藤ひとみ理事長をはじめとするいつも優しい理事の皆様であり、快くお引き受けいただいた講師やパネリストの皆様、座長の皆様です。そして、事務局長の山崎隆恵先生、実行委員長の築地優子先生をはじめとする、いつも笑顔の実行委員の皆様です。また、多くの会員の皆様よりご指導ご鞭撻、そして、ご協力をいただきました。心より御礼申し上げますとともに、本学会の発展をご祈念申し上げます。

第24回学術集会を終えて

事務局長 山崎 隆恵（北海道教育大学札幌校）

2016年は地震や大雨などの自然災害が多い年と心に残っている方が多いと思います。熊本・鳥取では地震が、岩手・北海道では台風による大雨の被害がありました。10月8日・9日、北海道のこの季節は、大雨や山では雪が降ってもおかしくない時期のため、開催が決まったときから天候の心配をしていました。学会当日は多少冷え込んだものの何とか天候に恵まれ、無事に全日程を終えることが出来ました。ひとえに、ご参加くださいました会員の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

今回の学術集会は、北翔大学、北海道教育大学、札幌市および周辺市町村の養護教諭の方々で実行委員会を組織し、学術集会にご参加いただく皆様に満足いただける内容にしようと、何度も打ち合わせを重ねました。4月には熊本地震があったことから、昨年の開催地であった熊本の方々に心を寄せつつ、引継ぎながらも前進を考えた打ち合わせでした。

本開催地が北海道であること、会場とした北翔大学は札幌市に隣接する江別市という若干不便な場所であることは最大の心配事でした。当日スタッフとして北翔大学の学生を中心として広範囲にわたる道案内等に協力していただきました。それでも配置は不十分だったようで、ご不便をおかけした方もおられ、申し訳ございませんでした。一日目の昼食についても、大学近くのコンビニが開催直前に閉店しご迷惑をおかけしました。

しかしながら、みなさまの熱心な向学心に支えられ、参加人数は約300名と予想を上回ることができました。

内容や時間配分についてのご意見もありましたが、「実行委員や学生さんをはじめ丁寧に対応していただいた」「親切に案内してくださる学生さんに感動しました」など、温かいお言葉をいただきました。また、実行委員の多くは、養護教諭としての勤務と並行させた準備となり大変でしたが、終わった後は心地よい充実感が残ったとの声をいただきました。

最後となりましたが、講演講師、パネリスト、座長をお引き受けくださった先生方、理事長・理事をはじめとする会員の先生方、そして、学術集会にご参加いただいた、すべての皆様に感謝申し上げます。

今後の学会の発展と、第25回学術集会のご成功を願います、学術集会の報告とさせていただきます。

<学術集会アンケート結果>

学術集会の際にいただきました貴重なご意見をまとめましたので、ご報告させていただきます。

【回答数30名】

1. 本学会をどのようにして知ったか（複数回答）

[日本養護教諭教育学会誌（16.6%）、機関紙「ハーモニー」（8.3%）、学会のホームページ（11.1%）、雑誌等（5.6%）、本学術集会のチラシ（36.1%）、知人の紹介（8.3%）、いつも参加している（13.9%）]

2. 興味を持った内容（複数回答）

[パネルディスカッション（30.4%）、一般演題（口演）（23.2%）、セミナー（12.5%）、一般演題（ポスター）（10.7%）、学会長基調講演（7.1%）、特別講演（7.1%）、ランチョンセミナー（7.1%）] など

3. 本学術集会の運営についての自由記述

<アクセス>少々不便。駅や大学入り口付近、大学入り口から会場までの案内看板や案内人の配置が乏しく、わかりにくかった。

<パネルディスカッション>充実した内容で勉強になった。

<ランチョン>お弁当が出て驚いた。

<スタッフ>実行委員や学生の皆さんがとても丁寧に準備ご案内されていて好印象だった。

<その他>

- ・今後入会を考えたいと思うような学会だった。
- ・スケジュールはもう少し余裕を持たせてほしい。
- ・口演発表、ポスター発表すべてを聞くことができず残念。
- ・1日目の昼食に関する説明がほしかった。

4. 次年度の学会に希望すること、取り上げて欲しいテーマなど

- ・アクティブラーニングによる健康教育や高大連携。
- ・チーム学校について、地域社会の関係機関や関係職種のパネリストも登場させて企画してほしい。
- ・教育活動において養護教諭の専門性が生かされた実践。
- ・養護教諭の他には代えられない職務（存在意義）とは何か。
- ・複数配置による望ましい連携

アンケートにご協力いただきました皆様にお礼を

申し上げます。皆様からの貴重なご意見・ご要望は、第25回学術集会の実行委員会へ申し送りさせていただきます。

第24回学術集会プレコンgres報告

三木とみ子（学会活動担当常任理事）

2016年10月8日（土）10：00～12：00、北翔大学の649教室において「『養護教諭の倫理綱領』における養護実践基準を考える－専門性を生かした実践の検討を通して－」をテーマに、プレコンgresを開催した。今回のプレコンgresでは、本学会理事会で検討を進める「養護実践基準」について、参加者の方々から多くの意見を求めるために理事会と学会活動委員会が企画した。参加者は85名であった。そのうち、アンケートに回答があった64名について、本学会会員が54.7%、会員外が39.1%であった。その内訳は、現職の養護教諭29.7%、大学教員40.6%、指導主事3.1%、学生26.6%である。

プレコンgresの内容は、以下の通りであった。

1. 「養護教諭の倫理綱領」とは何かを説明（後藤理事長）
2. 「養護教諭の倫理綱領」第13条の養護実践基準について説明（三木常任理事）
3. グループワークの進行（宮本理事）
4. 「養護教諭の実践基準」について、各グループでの協議を共有（小林理事）
5. 全体のまとめ（後藤理事長）
6. アンケート記入

1では、後藤理事長から昨年度の総会で承認された「養護教諭の倫理綱領」について説明があり、自己チェックシートを用いて理解を深める取り組みがされた。結果、かなり理解できた26.6%、少し理解できた60.9%であった。初めての参加者から「もう少し読み込んでから参加すると理解につながったと思いました。」「どのこと、概念的なこと？実践上のこと？何に焦点を当てて考えたらよいのか難しかった。倫理綱領とは何かを理解できていないのだと思う。勉強不足です。」とあった。

2では、三木常任理事から「養護教諭の倫理綱領」第13条『養護実践基準』について」の説明を行った。これらの説明を聞いた後、各10名程度の12グループに

分かれて、平成20年の中央教育審議会答申に示された養護教諭の7つの主な職務内容から、各グループに1つを割りあて、その職務内容において、実践の基準となることは何かについて協議した。

プレコンgresが有意義であったかの問いについてはかなり有意義であった59.4%、少し有意義であった17.2%であった。初めての参加者からは、「職種が様々の中で、いろんな意見を聞くことができた。」「話を聞いて、自身の今後の職務に活かしていきたいと思いました。」「多くの方が参加されて、共有のための時間が足りないくらいでした。」「他の人が養護実践基準ということをどのように捉えておられるかということがわかった。」などの意見があった。さらに、養護教諭の実践基準の作成に期待することとして意見の一部を紹介する。「専門性が担保される。」「基準となって、振り返りに活用できるとよいと思いました。」「実践レベルがまちまちなので、チェックリストで振り返ることができれば、見落とすことなく、実践できる養護教諭の専門性を基準化できれば評価もしやすいと思いました。」「自己評価して、活動を改善させるために活用していきたい。」「養護教諭の首を絞めるような内容や細かい内容は避けていただければと思います。内容が細かいとそれに縛られてしまう気がします。」「日常の仕事に生かせる様々な基準があれば助かります。」「シンプルで分かり易いことが第一であると思います。」など多くの意見を聞くことができた。今後の検討に活かしたい。

学会参加者の声

「第24回学術集会に参加して」

木嶋 葉子（茨城県稲敷市立あずま東小学校）

「北海道で学会がある？こんな機会はない。行こう。」10月3日の茨城大学教育学部後期委託生の開講式後に行われた受入教員との初回打合せの際に、本学術集会を紹介され、4日後には飛行機に乗っていました。参加した学術集会のサブテーマの「チーム学校への挑戦」は、奇しくも今回委託生としての私の研究テーマでもありました。

パネルディスカッションでは、「チーム学校推進法」の制定から、チームで関わる様々な立場の方からの提案を聞くことができました。その中でも「家族が、子

育てできる条件ではない中で、学校が対応している。」との言葉が胸に刺さりました。子育てできる条件ではない中で、精一杯やっているだろう家庭に、学校は当然のように求めてはいないだろうかと。様々なせめぎ合いの中で、学校も自らのスタンスを振り返る必要もあるのではないかと考えました。

学術集会最後の企画では、セミナー②「こころの問題が起きた時、子どもをどう守るか」（講師：新川貴紀氏）に参加しました。養護教諭になろうと未来に希望を持ち、きらきらした眼差しの学生とペアになり、ワークを行いました。日々行う「話しをする」「聞く」「理解する」ことを、客観的に見ることの大切さも感じました。

改めて、養護教諭は養護教諭の間で学ぶのだ、子どもは子どもの間で学ぶのだと実感しました。養護教諭の立場や、日々の仕事を見つめ直す機会となり、とても刺激的な二日間を過ごしました。それ以上に素敵な出会いに感謝しています。

==== 「第24回学術集会に参加して」 ====

向山世璃子（大阪人間科学大学）

1日目午前で開催されたプレコンgresでは、「『養護教諭の倫理綱領』における養護実践基準を考える」をテーマに、全国各地で学校保健業務や養護教諭養成に携わる方々、養護教諭を志す学生のみなさんと積極的に意見を交わすことができ、有意義な時間となりました。1日目午後に行われた学会長基調講演、特別講演、パネルディスカッションは、子どもたちの現代的な健康課題への対応や今後の学校保健の展開を考えるにあたり、重要な内容ばかりでした。

2日目の研究発表では、「養護教諭養成における養護学の内容構成に関する考察」と、「子どもの問題構造の可視化とアセスメントを支援するための動的リンク機構の開発」の2件のテーマで発表させていただきました。質疑応答やご意見・ご感想から、新たな気づきや異なる視点を得るきっかけとなり、今後の研究課題がより明確になりました。参加者の皆様の発表から学ぶことも多くあり、本学会で研究成果をまとめ発表することの大切さを実感しました。

また、スタッフとして参加されていた北翔大学の学生さんの何事にも誠実に取り組む姿が、とても印象的でした。北海道の自然豊かな落ち着いた環境で開催さ

れた第24回学術集会は、大変貴重な学びの場となりました。この多くの学びを糧に、今後も研鑽を積み日々の職務に邁進したいと思います。

==== 「第24回学術集会を終えて」 ====

須藤愛理菜（北翔大学教育文化学部教育学科）

私が初めて日本養護教諭教育学会の学術集会に参加したのは2年前の千葉の学術集会でした。その時は一参加者として発表を聞かせていただきました。昨年行われた熊本での学術集会では、初めてポスター発表で参加しました。そして、今回は実行委員として参加し、学術集会では回を重ねるごとに、新たな経験をさせていただいています。

今回の学術集会のテーマは「子どもの未来を拓く養護教諭のカーチーム学校への挑戦ー」ということで、パネルディスカッションでは、学生である私たちでは普段接する機会の少ないスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等、他職種の方々のお話も聞くことができました。養護教諭はコーディネーター的な役割を担うことから、学生のうちから様々な職種について知ることができたのはとても大きな学びだと思います。今回の学術集会で学んだことを、将来養護教諭になった際活かしていきたいと思っています。

今回実行委員として事前の準備などを行い、今まで参加してきた学会でもたくさんの人たちの陰の努力があったのだと知ることができました。次回、金沢で開催される学術集会では、今までとはまた違った気持ちで参加することができるのではないかと、今回の学術集会を終えて思っています。

私の県の「ここが特色」⑱

「鹿児島県、ここが特色」

満田タツ江（鹿児島女子短期大学）

鹿児島県の養護教諭研究会は、「鹿児島県小・中学校養護教諭会」と「鹿児島県高等学校教育研究会高等学校・特別支援学校養護教諭部会」の2組織があります。研究大会は年1回、8月にそれぞれの組織で総会と共に行われます。本県は長崎県に次いで離島が多く、養護教諭の研究活動は地区別に行われているのが一番の特色です。最近の活動状況については、各組織の会長や会員の先生方からお聞きしたことをもとにお伝え

します。

小・中学校養護教諭会は会員数713名で離島を含め11地区が情報交換しながら地区活動を進め、それぞれの地区での保健協議会も行っています。特徴としては、地元医師会との連携が密に行われていることが挙げられます。医師会の作ったマニュアルにもとづき、心臓検診などが行われ、特に尿検査は3次検査まで行っています。医師会は健康教育面についても必要に応じてすぐ講師を派遣して下さるので、子どもの健康と一緒に見守ってくれているという安心感があります。今年度の研究大会の趣旨は、「県下の養護教諭が一堂に会い、健康教育の進め方や実践上の諸問題について研究協議を行い、よりよい生活行動を自ら選択し、実践できる児童・生徒の育成に資すると共に、養護教諭の資質の向上並びに学校保健の充実を図る」でした。また「生涯にわたり、健康づくりに自ら取り組む児童・生徒の育成を目指して」を主題に講演や熱心な研究協議が行われ、質疑応答や活発な意見交換等、大変有意義な研修会となりました。

高等学校・特別支援学校養護教諭部会は会員数145名で、特別支援学校を入れて6地区で研究活動を行っています。それぞれの地区での共同研究が盛んで、各地区での研究会も行っています。8月の全体研修会では、「高等学校・特別支援学校における養護教諭の職務内容や健康に関する諸問題について研究協議を行い、養護教諭としての資質を高め、健康教育の充実を図る」を趣旨に2日間行われました。4人の専門の先生方による講演と地区共同研究が2つの地区から発表され、グループ討議や全体協議などを通じ、大盛会のうちに終わることができました。同会は他に年1回部会誌を発行しているので、残り4地区の共同研究は部会誌上での発表となっています。役員は九州地区研究協議会および全国養護教諭連絡協議会へ参加し、時代に即した健康課題への対応について会員へ報告しています。

最後に鹿児島県主催の健康教育研究大会を紹介いたします。この大会は養護教諭だけでなく、学校医や児童生徒の健康教育に携わる関係者が集まって行われます。講演や講話の後、7分科会に別れ、研究協議が行われます。児童・生徒の健康について様々な立場の方の意見を聞くことができ、大変貴重な学びの場となっています。

「災害について考える」⑤

「熊本地震発生から7ヶ月 ～加配養護教諭の立場から～」

緒方 加奈

(熊本県益城町立木山中学校・五木村立五木中学校)

地震発生から半年が過ぎました。発生当時、私は熊本県南部に位置する学校に勤務していました。地震による揺れはありましたが休校することもなく、通常どおり授業を行っていました。

6月から加配養護教諭として現在の中学校に勤務しています。それまで報道でしか知らなかった益城町の状況を目の当たりにして驚きました。本校は校舎や体育館に大きな被害を受け、12日間の臨時休業の後、5月9日より隣接する小学校を一部間借りして学校を再開していました。ホールを仕切って授業を行うクラスもあり、非日常的な環境で子どもたちは精一杯授業を受けていました。養護教諭4名(小中学校2名ずつ)、スクールカウンセラー2名が常駐する保健室で、生徒の心のケアや保健室に来室する生徒の対応、延期になっていた健康診断等を行いました。特に生徒の対応では、健康問題の背景に震災の影響がないかどうか見極めるために丁寧な問診を心がけています。

2学期より中学校の校舎での生活が始まりました。給食センターは復帰の見通しが立たず、業者から全校生徒分の弁当が運ばれてきています。生徒の通学状況も大きく変わりました。約3割の生徒が仮設住宅。アパートや親戚宅等の益城町外の地域から通っている生徒もいます。1学期に実施できなかった体育大会や、文化活動発表会等の大きな行事が立て続けに行われ、生徒たちは、「支援していただいた皆さんに頑張る姿を見せたい」と意気込み、一つ一つの行事を一生懸命頑張りました。現在、震災直後からずっと走りっぱなしだった生徒たちにも、少し疲労が見られます。マイコプラズマ肺炎や溶連菌感染症等で出席停止の生徒、蕁麻疹で受診する生徒も出てきました。生徒の内面は、学校生活の様子やアンケート結果だけではわからない部分もあり、一人一人を丁寧に見ていく必要があるとスクールカウンセラーとも連携を図っているところです。

これからの季節、例年よりもインフルエンザ等が流行するのではないかと危惧しています。生徒を取り巻く環境や状況も日々変化しています。様々な面で配慮

する生徒が多く、引き続き個に寄り添ったきめ細やかな対応が求められています。

最後に、益城町だけでなく、近くの市町村にも全国各地から養護教諭が派遣されています。加配養護教諭の会として定期的集まり、互いの近況を報告したり、それぞれの県の情報交換をしたり等、ホッと一息の場にもなっています。全国の皆様から支援していただいていることに日々感謝しながら、養護教諭として何が求められているのかを考え、努めていきたいと思っています。

トピックス

「これからの養護教諭・栄養教諭の在り方に関する検討会議」および養護教諭養成における専門科目等の議論について（報告）

理事長 後藤ひとみ

前号で予告しました「これからの養護教諭・栄養教諭の在り方に関する検討会議」（以下、検討会議）が設置され、8月31日に第1回全体会と第1回養護教諭WGおよび栄養教諭WGが開催されました。

第1回養護教諭WGでは、これからの養護教諭に求められるものとして、専門スタッフと連携・協働し、チームとして職務を担うことができるなどの視点が提示され、「これからの養護教諭の役割等についてまとめた指針（手引）」の作成が提案されました。10月2日の第2回養護教諭WGでは、指針案の検討に加えて、養護教諭の資質・能力向上等にかかわる調査研究事業や教職課程の見直しが話題になりました。11月2日の第3回養護教諭WGでは、「これからの養護教諭の活動指針（案）」の中心となる観点（学校における子供の課題解決の基本的な進め方）が提案されました。12月6日には第2回全体会が開かれ、養護教諭WGと栄養教諭WGの進捗状況を共有しました。席上、最終まとめでは活動指針と表現しないこと、栄養教諭に比して養護教諭は歴史が長く、職務も広いことから全体を網羅するものにはならないこと等が確認されました。同日のWGでは、チーム学校の視点から養護教諭の役割に言及することを再確認し、2月6日の最終会議にむけて養護教諭関係団体連絡会（以下、連絡会）からも修正意見を提出する旨が了解されました。

検討会議と並行して、8月31日に連絡会の4団体代表とともに藤原初等中等教育局長に「これからの養護教諭の養成および研修等の改善について（要望）」を手渡しました。9月16日には連絡会会長として、馳前文部科学大臣に「子供の健康危機への対応を担う養護教諭の養成及び研修等の改善について（要望）」を手渡し、今後のご支援をお願いしました。その結果、教育職員免許法関連の議題は連絡会と健康教育・食育課と教職員課の三者で協議することになりました。三者協議は10月5日、10月20日、12月2日に行い、やっと議論のテーブルに辿り着いたという状況です。12月11日には連絡会の各団体代表者が集まり、年度内に成果が得られるような取り組みについて話し合います（紙面の都合上、関係資料は同封しました）。

2016年度総会報告（速報）

古賀由紀子（総務担当常任理事）

2016年度総会は第24回学術集会（北翔大学722教室）において217名（委任状提出者153名を含む）の出席により、今野洋子学会長と築地優子会員の議長のもとで開催されました。以下に審議・承認された議案の概要を報告します。

- 議案1. 2015年度事業報告 原案通り承認。
- 議案2. 2015年度決算・監査報告 原案通り承認。
- 議案3. 2016年度事業経過報告 原案通り承認。
- 議案4. 2016年度補正予算審議 原案通り承認。
- 議案5. 2017年度事業計画 原案通り承認。なお、会員から「養護実践基準」について協議する場を設けるよう要望が出され、時間をかけて丁寧な議論を重ね、会員には学会HPやハーモニーで報告していくことを確認。養護教諭関係団体連絡会については、議事録で確認された内容を学会HPにアップしていくことを確認。
- 議案6. 2017年度予算審議 原案通り承認。
- 議案7. 研究助成金研究に関する内規の改正 原案通り承認。2016年10月9日より施行。
- 議案8. 研究助成金研究の選定 新規1件の研究に対し、研究目的に合致したテーマにすること、研究計画を再検討することという条件付きで承認。
- 議案9. 2017年度に実施される役員選挙に関わる選挙管理委員の選出 原案通り承認。選出された選

挙管理委員は次の方々です。

<北海道・東北ブロック>

築地 優子（札幌市立屯田南小学校養護教諭）

入駒 一美（岩手県立一関清明特別支援学校副校長）

<関東ブロック>

中下 富子（埼玉大学教育学部教授）

中川 優子（横浜市立鶴沼中学校養護教諭）

（総会后、委員の互選により委員長は中下会員になりました。）

議案10. 名誉会員の推戴 原案通り承認。石原昌江会員（中国・四国ブロック）、松本敬子会員（九州ブロック）が2016年10月9日より名誉会員。

議案11. 第26回（2018年度）学術集会開催地 近畿ブロックの兵庫県（学会長は津島ひろ江会員）で開催。

総会終了後、第25回学術集会学会長の河田史宝会員より挨拶があり、2017年10月8日・9日に金沢大学（金沢市）にて開催することが紹介されました。

.....
**2017年度「研究助成金研究」ならびに
第24回学術集会「投稿奨励研究」の選定報告**
.....

鈴木 裕子（学術担当常任理事）

<2017年度研究助成金対象研究>

本年9月10日に申請を締め切り、内規（2013年度制定）に則り、第3回理事会において審議を行いました。その結果、研究代表者鈴木薫会員（就実大学）他2名による「複数配置校における養護教諭の職務に関する授業研究－養護教諭養成教育における授業研究－」の1件に対し、研究の目的に合致したテーマにすること、研究の目的に合致した研究計画にすることの条件を付して選定することとし、2016年度総会にて承認をいただきました。今後、機関紙ハーモニーおよび学術集会でご報告いただいたのち、助成期間終了後おおむね1年以内に学会誌へ投稿していただきます。会員の皆様には今後も積極的にご応募いただけますようご準備をお願いいたします。

<第24回学術集会「投稿奨励研究」>

学術集会の一般発表から優れた研究を推薦し学会誌への投稿を奨励する「投稿奨励研究」につきましては、第24回学術集会の一般演題座長および本学会理事に依頼して推薦していただき、理事会で選定を行いました。

その結果、複数の推薦を受けた本岡千草さん（尾道市立向東小学校養護教諭）の「生活習慣の定着に向けて実践できる力を育む保健教育の在り方についての一考察～養護教諭が中核的な役割を担う保健指導を通して～」1件を今回の投稿奨励研究として選定し投稿奨励を行いました。特典として学会誌に投稿の際に査読費用7,000円が免除されます。今後も同様に投稿奨励を行ってまいります。養護教諭教育の発展につながるような養護教諭の視点によるご研究を特に期待しています。

<学術担当常任理事>

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1

国士舘大学教育学部 鈴木裕子

TEL 03-5481-3232

e-mail : suzukiyu@kokushikan.ac.jp

**学会誌第21巻第1号の投稿原稿の募集と
「学会誌投稿論文の差読者リスト作成に
関わる調査」へのご協力をお願い**

岡本 啓子（編集委員）

<学会誌第21巻第1号の投稿原稿の募集>

本学会誌は創刊より第21巻を迎えることとなり、近年は会員の皆さまに多くのご投稿をいただいています。誠にありがとうございます。本学会誌は養護教諭や養護教諭を目指す人が、ここで学び成長し、指針とし、糧とするものです。会員の皆様の課題を持って取り組んだ研究を投稿していただくことに、編集委員会として、この上なく嬉しく思いながら毎回編集作業を進めています。

本学会誌の発刊は、9月末と3月末の年2回ですが、来る2017年9月に発刊予定の第21巻第1号への投稿を予定されている会員の皆様は、ご準備をお願いいたします。2017年3月末日の締め切りを待たずとも早目のご投稿を進めていただければ幸いです。毎回お願いしていることですが、投稿の際には、投稿規定および投稿原稿執筆要領（第20巻第1号p.100～p.103）をお読みいただき、十分に推敲した原稿をご投稿ください。また、論文投稿のしかたについてもご一読いただき、投稿時のチェックリスト（第20巻第1号p.107）もご活用のほどお願いいたします。会員の皆さまの論文投稿を心からお待ちしています。ぜひ学会誌へ論文でご参加ください。

＜「学会誌投稿論文の査読者リスト作成に関わる調査」へのご協力のお願ひ＞

この度、編集委員会では、学会誌の査読者リスト作成に関わる調査を行うことになりました。この調査結果を元に本学会誌の査読者リストを作成して、より円滑な査読システムの構築を図っていきたく考えています。今回同封しました調査用紙にお答えいただき、返送をお願いいたします。返送方法は下記編集委員会事務局宛に、FAXまたはPDFのメール送信をお願いできれば幸いです。2017年1月10日までにお送りください。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

＜編集委員会事務局＞

〒310-8512 水戸市文京2丁目1番1号
茨城大学教育学部教育保健教室
斉藤ふくみ
TEL/FAX 029-228-8298 (研究室直通)
e-mail: fukumi.saito.naru@vc.ibaraki.ac.jp

**日本養護教諭教育学会2016年度
第2回理事会開催議事録報告(要旨)**

古賀由紀子(総務担当常任理事)

1. 日 時：2016年7月16日(土) 13:00～17:00
2. 場 所：名古屋国際センター内 和室
3. 出席者：後藤、大川、加藤、河田、古賀、小林、
斉藤、鈴木、塚原、圓岡、三木、宮本
欠席者：森
4. 議事・報告
 - 1) 2015年度決算報告および2016年度補正予算案・
2017年度予算案について
 - 2) 2016年度総会議案の確認と総会役割分担
 - 3) 2016年度活動経過報告
理事長、総務、学会活動、学術、学会誌編集の
各委員会より2016年度の活動経過報告があった。
学術からは助成金研究についての規程改正が提案
され、総会に諮ることとした。
 - 4) 養護教諭関係団体連絡会の取組について
連絡会会長である後藤理事長より、「これからの
養護教諭の在り方」を考える検討会議の立ち上げ
が予定されていること、それに向け連絡会として、
文部科学省に要望書を提出する旨の報告があった。

- 5) 「養護教諭の資質能力検討WG」について
学会活動担当理事よりWGによる分析結果を学
会誌に発表予定であることが報告された。
- 6) プレコングレスの企画(案)について
- 7) 第24回学術集会の進捗状況についての報告

事務局より

圓岡 和子(事務局長)

◎次期役員の選出にむけた会費納入について

来夏に実施される理事の選挙が告示されました。選挙権は、2016年度の年会費を支払った会員が有します。未払いの方は、お早めに会費納入をお願いいたします。

◎住所変更等の届について

来年3月下旬に学会誌第20巻第2号をお届けします。例年、大学院生や大学生の方で就職し転居された方の学会誌が宛先不明となって返送されてきます。所属先や自宅住所、発送先が変更になった場合は、速やかに事務局までご連絡ください。その際、学会誌巻末の「会員登録」変更届をご利用のうえ、FAXもしくは、同様の内容をEメールにてお送りください。

◎会費納入のお願ひ

年会費未納の方に、振込用紙を同封しましたので、早めに入金をお願いします。年会費が2年分滞った場合、学会誌の発送を一旦見合わせております。また、退会届が出されても、滞納分の会費は全額お支払いいただくこととなりますので、ご承知おきください。

編 集 後 記

今年も地震や大雨などの自然災害が多い年でした。会員の皆様それぞれ「災害について考える」年になったと思います。シリーズ「災害について考える」も3回連続で熊本県の会員の皆様にそれぞれの思いを語っていただきました。厳しい状況の中で、ご執筆してくださいましたことに心から感謝申し上げます。

今年も残すところあと少しとなりました。会員の皆様には、たくさんのご協力をいただき、本当にありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願ひいたします。来年がより良い年になりますようお祈りしております。(N.O)